

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成29年度 病害虫発生予察情報について (送付)

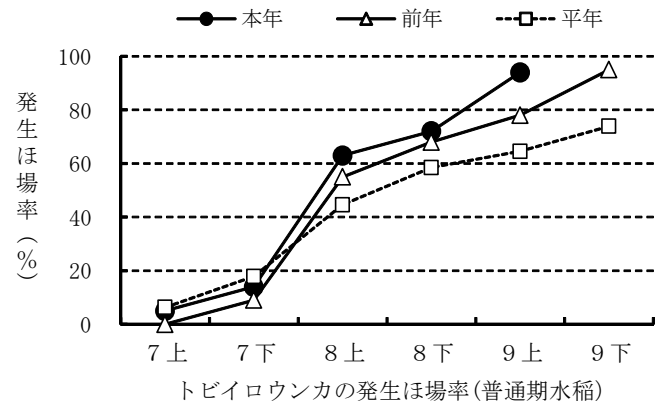
このことについて、発生予察注意報第1号(普通期水稻のトビイロウンカ)を發表します。

病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名 普通期水稻
2 病害虫名 トビイロウンカ
3 発生地域 普通期水稻栽培地帯
4 発生量 多

5 注意報の根拠

(1) トビイロウンカの発生状況については、9月中旬にかけて発生密度が高まると予測し、9月1～10日頃の防除を呼びかけてきた(平成29年8月30日付け技術情報第5号及び発生予報第6号(9月))。9月4～7日に行った巡回調査(調査ほ場数62ほ場)での発生ほ場率が93%(平成29年8月30日付け技術情報第5号及び発生予報第6号(9月))。9月4～7日に行った巡回調査(調査ほ場数62ほ場)での発生ほ場率が93%(平成29年8月30日付け技術情報第5号及び発生予報第6号(9月))と、予測どおり8月下旬(72%)より21%高まるとともに、防除が必要な中発生以上のほ場が27%認められた(右のグラフ及び次ページの表1を参照)。



(2) 鹿児島地方気象台が9月7日に発表した向こう1か月の気象予報によると、九州南部の気温は高いと予想されており、トビイロウンカの増殖に好適な条件が見込まれることから、今後、坪枯れの発生が懸念される。

6 防除対策

(1) トビイロウンカの発生状況を確認し、発生を認めたら直ちに防除する。既に下葉の枯れ上がりが認められ、スズで株元が黒く汚れているほ場では多発している恐れがある。発生はほ場間差が大きいとともに、ほ場内の分布にも局在性があるので、ほ場の外から観察するのではなく、ほ場内に入ってほ場全体を確認すること。

(2) 中～晩生品種では収穫までまだ期間があり、さらに次世代虫の増殖が懸念されることから、10月上旬に再度防除の必要な場合が考えられる(次ページの発生経過予測図を参照)。

7 防除上注意すべき事項

(1) 本種は稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように行う。

(2) ほ場では各虫態が混在しているので、防除を実施した後もその後の発生に十分注意する。

(3) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

有効積算温度利用によるトビイロウンカの発生経過予測図 (鹿児島地方気象台：加世田のデータを使用)

鹿児島県病害虫防除所 2017年9月7日 作成

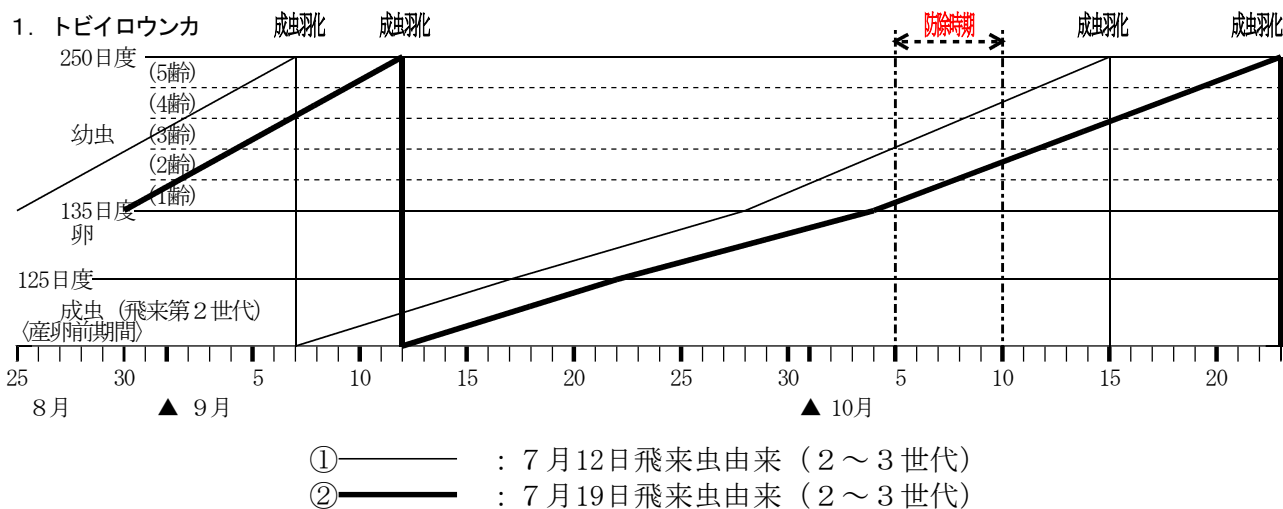


表1 巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況 (調査日：9月4～7日)

地域名	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)					平年	
		本年	甚	多	中	少		無
南 薩	10	100	(0	10	20	70	0)	70
北薩平坦	24	88	(0	0	17	71	13)	69
北薩山間	22	95	(0	9	27	59	5)	57
大 隅	6	100	(0	17	17	67	0)	63
県 計	62	93	(0	7	20	67	7)	65

※ 発生程度別基準

払い落とし株当たり平均寄生虫数 (無：0, 少：1～5, 中：6～20, 多：21～50, 甚：51以上)

※ 平年は2007年～2016年までの平均値。

※ 巡回調査地点

南 薩：南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目

日置市伊集院町大田, いちき串木野市大里

北薩平坦：鹿児島市東佐多町, 始良市三拾町・蒲生町楠田

霧島市隼人町住吉・国分上小川, 薩摩川内市宮崎町・高江町

出水市野田町屋地・高尾野町東干拓, 出水市六月田

薩摩川内市入来町浦之名, 阿久根市鶴川内

北薩山間：さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川, 薩摩川内市祁答院町上手

伊佐市菱刈前目・田中, 伊佐市大口金波田・木崎・山野, 湧水町北方

大 隅：曾於市末吉町高松・大隅町笠木, 鹿屋市野里